

看護と身体拘束 第2版

看護の可視化のために

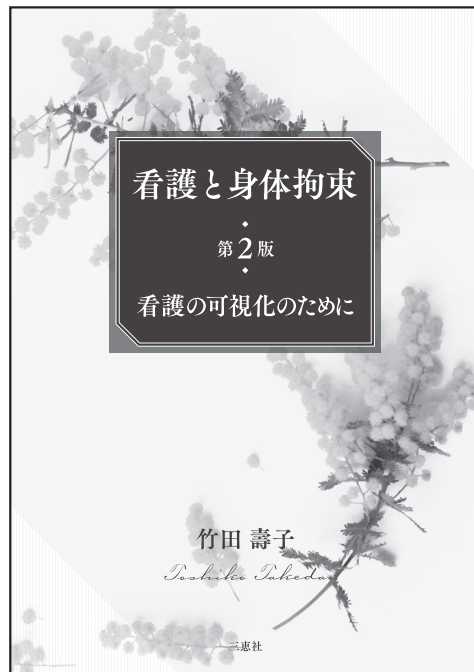
話題書籍の待望の増補改訂版 看護従事者必読の一冊

「身体拘束に頼らない看護」を考えることを目的として発行した初版では、身体拘束を医療施設・老人施設に類型化した一覧表を提示し、更に、著者が実験で得た非拘束者の苦痛を紹介し、加えて「人の自由を奪うことの法的意味」とその実例である精神保健福祉法の身体拘束部分を網羅した。

第2版となる本書では、初版の第1章～第3章の後に、第4章として「看護の基本」から探る解決策の章を置いた。

身体拘束行為を「看護理論」に引き寄せて考えるとどうなるか。「拘束は原則禁止」あるいは「拘束に頼らない臨床看護」の面から考慮すると、何が必要で何が問題なのか、考える必要性があるためである。

本来の「看護」を内包する行為として行動化する。そして看護が担保しているものとして、その効果を確認する。その過程は看護の「可視化」の貴重な素材になる筈である。



著者 竹田 壽子

1966年 国立久留米病院付属高等看護学院卒業
1970年 厚生省 看護教員講習会受講
1978年 近畿大学法学部卒業
2012年 大阪人間科学大学大学院 人間科学研究科卒業

1975年から1985年京都市立看護短期大学で成人外科系講師。2001年済生会鴻巣病院の看護部長経験から精神看護学、看護管理論、医療安全を専門領域とし、2007年学校法人畿央大学講師にて三領域の研究・教育を経て、2012年から2016年3月まで学校法人 浦山学園富山福祉短期大学精神看護学准教授

目次	第1章 一般病院でのミトン拘束裁判を通して看護の本質について
	第2章 ミトン拘束の身体的影響 —ミトン拘束が患者に与えるストレスに関する生理心理学的研究—
	第3章 法律に基づく身体拘束について —精神科病棟の拘束を通して看護場面の身体拘束を考える端緒として—
	第4章 「看護の基本」に探る解決策 ナイチンゲールの看護論に照らして看護であるもの看護でないものの吟味

数に限りがありますので、お早めにご注文ください。

新刊委託締切：2020年7月16日(木)着分まで (以降のご注文は追加注文となります)

ご注文申込書 貴店名/帖合	注文数	発売：株式会社三恵社 TEL:052-915-5211 FAX:052-915-5019
	冊	看護と身体拘束 第2版 看護の可視化のために 132頁/A5判/ワタガ - 定価1,800円+税 ISBN978-4-86693-246-0 C3047
ご注文はJRCへ FAX:03-3294-2177 TEL:03-5283-2230 株式会社JRC経由で、すべての取次への出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。		

※取次配本はありません。